

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300586		
法人名	株式会社 人輝		
事業所名	グループホーム 輝こはらだ		
所在地	郡山市小原田4丁目2番17号		
自己評価作成日	平成30年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成30年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人ひとりに合った生活を提供し、利用者様の笑顔が毎日見られるよう、そしてご家族様が安心して下さるよう働くスタッフ同士の連携を図り業務しています。小原田地域住民が気兼ねなく施設に入れるように毎週いきいき百歳体操をおこない、地域住民と交流を図り利用者様、ご家族、地域住民、職員の毎日が楽しく笑顔であふれる施設生活を送っていただけるよう介護していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一日の生活が利用者の自立した生活のため、出来ることを見守ることで残存機能の保持に努め、安心して人間らしい生活を送れるケア支援に努めている。いきいき百歳体操をはじめ、公民館事業と連携して、介護に関する説明に出席したり、利用者作品の出展、地域の行事に事業所会議室の提供、地域カフェの開設など地域住民と交流を図ることで地域密着に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関先に提示してある	開設時に管理者と職員が話し合い、事業所独理念を掲げ、利用者本位のケアに取り組んでいる。利用者の自立支援のため、日常生活で出来ることはお手伝いしてもらい残存機能の保持のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週木曜日にいきいき百歳体操を地域の皆様と実施している。回覧板を回して頂き、地域の情報を共有している。2ヶ月に1回の地域ケア会議において地域の方たちと交流を交わしている。	地域住民も自由に参加できる、いきいき百歳体操を通して事業所活動の理解を深める活動を行っている。事業所会議室を地域住民のサークル活動の行事会場として開放し、利用者も参加するなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、地域住民に相談室の開放や、毎週木曜日にいきいき百歳体操の実施なので気軽に施設に来れるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、他施設のやり方など教えていただきサービス向上を目指している。	会議の席上、ヒヤリハットの件数だけではなく内容も表記しては、の意見を取り入れ導入している。開設時からのメンバーの市介護相談員の意見から、夜間の水分摂取に対応できるよう水筒の設置、熱中症対策に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に取り合っている。	生活保護者も入居しており担当課に訪問したり、月に一回は高齢福祉課に顔を出すなど情報交換に努めている。相談事がある場合は、電話にて問い合わせるなど密に連絡できる関係をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する行為はみられていない。	外部、内部研修会にて身体拘束について職員の教育、意識づくりに努めている。帰宅願望が強い場合は抑止するのではなく、散歩しながら話し合い落ち着くよう取り組んでいる。ベットから立ちあがったのが分かるよう鈴を付けるなど安全、安心に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修に参加し学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方には後見人として対応して頂いている。 又、内容については勉強会などで周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など口頭にて要望があると日誌や、生活記録ノート、申し送りノートに申し送っている。	居室担当制を導入して利用者の意見をケアに活かせるよう努めている。食べたい物をメニューに取り入れたり、望む品は家族に伝えるか、買い物日に本人が直接購入など支援している。毎月の診察に付き添う家族と面談して、意見を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回の全体会議や個人面談等にて意見を吸い上げている。	個人面談による話しやすい環境と機会をつくり、意見の聞き取りに取り組んでいる。食事の調理時間に手をかけるより、その分をケアに充てたいという意見を取り入れ、加熱することで吹きあがる加工食材を導入するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回自己考査を行い職員の給与ベースアップをはかったり、それぞれの働ける条件を考慮し勤務体制に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中でベテラン職員が新人職員に対して指導を行っている。月一度の内部研修や研修等には職員が何を学びたいか、何を必要か判断し外部研修を入れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の会議の時に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	明るく笑顔で対応し、ご本人様の想いを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	明るく笑顔で接し、面会時や電話などにて要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを通じて反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを大切に行い関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、通院時等築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や、面会時、親戚の方々や家族と交流している。	友人の面会も多く、居室にて利用者と静かに話したり、一緒に外出して食事を楽しむなど関係を継続できるよう受け入れ体制を整えている。利用者の外出希望を聞き取った場合は、家族に伝え願いが叶うよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや炊事等一緒にすることにより交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の課題である		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングやケアプラン作成時に検討している。	利用者と職員の間関係づくりに努め、日々のふれ合いから思いや要望の聞き取りに努めている。聞き取りにくい利用者の場合は、入浴時や就寝前の心がほぐれた時などをとらえている。得た思いは職員、家族に伝えて情報の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中や家族面会時、カンファレンスの開催時に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残存機能を生かして努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時や、電話などご家族様、本人の意見を聞きカンファレンスなどで話し合いを行っている。	利用者の状態変化に応じて、日々の観察結果を基に医師、看護師に相談し、意見を取り入れて介護計画の見直しを行っている。介護計画の見直し時には家族と話し合い、要望や思いを叶えられるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度申し送りノートに記入し職員間の情報の共有をはかっている。 又、月一度のカンファレンスで行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型との連携に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと連携し地域ケア会議で検討会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医には家族対応にて通院し連携を図っている。 又、家族対応が難しい方には利用されている。	入居前からのかかりつけ医を含めて、受診は家族対応をお願いして、かかりつけ医との関係継続を支援している。受診前後は家族と話し合い、受診支援から服薬や診療結果を聞き取り、今後のケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や家族と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様が要望する場合のみ行っている。	入居時に説明した上で本人、家族の意向を確認している。重度化時には主治医の往診や意見、家族の意見を聞き取り、看取りの体制づくりに努めている。内部で勉強会を開き、過去の経験を活かしながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時など緊急連絡網作成している。 内部研修棟でも訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修等にて周知している。	定期的な防災訓練には夜間想定避難訓練を消防署員の立ち会いのもと実施している。ベランダからの滑り台による避難には、車イス用のドアスロープの取り付けから毛布を使った脱出法などアドバイスを得て避難路の確保をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中で接遇等に注意したり、勉強会にて対応している。	居室は、利用者の部屋の認識のもと、ノック、声かけを行った上で出入りをするよう職員の心掛けしている。職員会議の後半30分を勉強会として、接遇にも関して話し合い、声かけ、肩や手へに手を添えての話し方などを学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いをプランに反映させて実施しているr		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に本人の好みに合わせて衣装を選んでいただいている。 又、定期的に来所する訪問理美容により身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りをしたり、日々の会話の中で個々の好みを聞きそれを尊重している。	利用者の食べたい物を聞き取り、食事のメニューに取り入れれたり、ケーキづくりやお好み焼きを取り入れるなど、楽しい時間が過ごせるよう工夫している。ご飯をよそったり、洗い物、茶碗拭きなど出来る範囲のお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、水分提供時に摂取量を記録用紙に記入し、チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に回数や状態を把握している。	トイレ使用を基本とし、排泄シートの記録や利用者の生活リズムを把握して適時の排泄誘導に努めている。夜間はリハビリパンツを使用する場合もあるが、こまめな声かけを行い自然排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬で対応しているが、出ない方にはヨーグルトなど乳製品を提供や運動していただく等の対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて対応している。	自分の好きなシャンプーや足マット、入浴剤セットを用意して安心して入浴を楽しめるようにしている。菖蒲やリンゴ湯など季節感を出している。拒む人には、散歩や担当者を変えながら声かけを行い入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時にはホットミルクを提供したり、話を傾聴したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と家族様からの受診にの状況を聞き、変更になった際は日誌、申し送りノートを活用し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でお盆拭きなど役割を持たせたり、ゲームやレクにて気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出レク等により対応している。	利用者の外出希望の聞き取りを家族に伝え、外出できるよう支援している。公民館の行事に作品を展示するなど地域との交流につなげている。定期的買い物の日を設け、利用者の好きな物を購入する機会づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の日を作り、2名から3名で近くのスーパーに行きご入居者様がお金を出し自分の好きなものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望がある際は、電話などで対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りや、花等にて季節感を出している。	廊下の壁には、毎月ごとに利用者の写真や出来事をまとめて掲示して、思い出を振り返られよう工夫している。共有空間には、月毎の暦を題材にした利用者や職員の手作りの大型切り絵作品や習字などを飾り、落ち着いた雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアの友人とのお茶を飲みながらお話をされてたり、疲れた際は個室のお部屋に戻り休んでいただく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	本人が大切にしている物や馴染みのある物居室に置いてある。	利用者の持ち込み品に制限はなく、利用者の望む居室づくりを支援している。愛用品や位牌を飾ることで落ち着く空間づくりがなされている。テレビやラジオを持ち込む利用者もあり、自由に時間を過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段に手すりを付け安全に歩行できるようにしている。		